

図書館だより



No.188

2013(平成25年)12月21日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Tel 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<http://www.library.fks.ed.jp/>



◆ 展示コーナーのお知らせ ◆

ノンフィクション受賞図書展

～時代と人の真実を見つめて～

期間：平成25年12月6日(金)～平成26年3月5日(水)

福島県立図書館では各分野で一定の評価を得ている受賞図書を継続して収集しています。今回はその中でも、ノンフィクションを対象とした受賞図書にスポットを当てました。テーマごとに展示し、賞の概要と共に紹介します。

関連展示

● 芥川龍之介賞 福島県出身・縁の方々の受賞作品

期間：平成25年12月6日(金)～12月27日(金) 場所：展示コーナー前ガラスケース

● ノンフィクション受賞図書

期間：平成25年12月17日(火)～平成26年3月5日(水) 場所：貸出カウンター付近

● 新人賞受賞図書 登竜門と栄冠

期間：平成25年12月6日(金)～平成26年3月5日(水) 場所：時事展示コーナー

主に新人を対象として贈られている賞の受賞作や関連資料を展示しています。



◆ ふゆのおはなしかい ◆

楽しい音のおはなしかい



～絵本のなかからきこえるよ～

音や音楽をテーマにしたおはなしかいです。読み聞かせのほかに、霊山こどものむらミュージアムから小笠原恵さんをお招きし、鳥の鳴き声を再現したおもちゃ「バードコール」をつくって、音の世界を楽しみます。

日時：平成26年1月13日(月・祝日)

13:30～15:00(受付 13:00～)

場所：福島県立図書館3階 第1研修室

対象：小学生 参加無料

定員：25人(お申し込み順 要予約)

こどものへやカウンターで直接、
またはお電話でお申し込みください。

◆ 休館のお知らせ ◆



○ 年末年始 平成25年12月28日(土)～平成26年1月4日(土)

○ 図書特別整理期間 平成26年2月12日(水)～平成26年2月21日(金)

*長期の休館にご注意ください。休館日は図書館HPやチラシ、日限票でも確認できます。

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お勧めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『東京五輪 1964』

佐藤 次郎／著 文藝春秋
2013.10 780.69/サン13X/

2020年に東京での二回目のオリンピック開催が決定しました。では、高度成長期に日本で初めて開催された一度目の東京オリンピックは、どのような大会だったのでしょうか？本書は金メダリストから日本ではマイナーだった競技の選手まで、また、聖火ランナーや実況アナウンサー、選手村の理容師などオリンピックにかかわった人々に取材し、十五日間を回顧しています。商業主義に走る最近のオリンピックとは異なり、最もオリンピックらしい大会だったのではないかと著者は記しています。

『真珠の歴史 富と野望の五千年』

山田篤美／著 中央公論新社
2013.8 668.8/ヤ7138/

その高貴な輝きで人々を魅了してきた宝石・真珠。装飾品としてだけでなく、神事に用いることや薬として飲まれていたこともあったといいます。日本は古来より真珠産出国として世界に名を馳せていました。真珠産出地をめぐる西欧列強の攻防、天然真珠から養殖真珠への転換などを織り交ぜながら、交易品としての真珠の歴史をひもとく一冊です。

『土の中に日本があった 登呂遺跡から始まった発掘人生今』

大塚 初重／著 小学館
2013.5 289.1/ホ135/

元日本考古学協会会長の自伝です。戦前、商業学校を卒業し海軍に入隊した著者は、戦後、考古学研究という全く別の分野の道へと進みました。その理由は、太平洋戦争の壮絶な体験のさなか湧きあがった「本当の歴史」とは何かという疑問に、もし生きて帰ることができたならば真実を知りたいという痛切な思いがあったからでした。

筆者の生き方に触れるとともに、戦後の日本考古学研究の足跡を辿ります。

児童・児童図書研究

『図書館に児童室ができた日』

アン・キャロル・ムーアのものがたり』

ジャン・ピンボロー／文 デビー・アトウェル／絵
張替恵子／訳 徳間書店 2013.8 016/ピ

約100年前、図書館に児童サービスという考えがなかった時代のアメリカで、子どものための図書室を作った女性がいました。彼女の名は、アン・キャロル・ムーア。本書はアンンの伝記を通じ、児童サービスの歴史をつづった絵本にもなっています。彼女が手探りで学んでいった試みは、後輩へと受け継がれていき、現代でも児童室のお手本となっています。そして国も時代も超え、今日の子どもの笑顔を作っているのです。

雑誌・新聞

「特定秘密の保護に関する法律案」が2013年12月6日に成立、同月13日に公布されました。国の安全保障に関して重要な情報を「特定秘密」に指定し、それを外部に知らせたり外部から知ろうとした人などを処罰する内容です。国民の知る権利やプライバシーの侵害を危惧する声や、行政機関にとって都合の悪い事柄を隠蔽するのに利用されるのでは・・・など、それに反対する意見も取りざたされています。今回はこの法案をめぐる様々な見解を掲載した雑誌を紹介します。

*「特定秘密保護法案の核心
～「政治」による「秘密」のコントロールをめぐる～」 宍戸常寿／著

Z/051/S1『世界』2013年12月号

*「日本を戦争のできる国に変えてしまう「特定秘密保護法」の正体 言論・表現の自由を規制する法律」 山了吉／著

Z/025.8/S5『出版ニュース』2013年11月中旬号

*「意見書「特定秘密保護法案に反対する」」日本ペンクラブ、書協、雑協

Z/025.8/S5『出版ニュース』2013年10月中旬号

*「特定秘密保護法案に反対する会長声明」日本弁護士連合会

Z/025.8/S5『出版ニュース』2013年10月下旬号

地域

『会津名君の系譜』

悲運をバネに世界を唸らせた「無私」のリーダー像』
原口 泉／著 ウェッジ
2013.8 L281.6/H4/1

薩摩藩の歴史研究家であり、鹿児島県立図書館館長を務める著者が、藩祖・保科正之より脈々と受け継がれる「会津の血」にスポットを当てた本書。

近世から現代まで、保科正之・松平容保・柴五郎・松江豊寿・井深八重・ソニー創業者である井深大の、会津に所縁のある6人の生き様が綴られています。彼らの生き方を学ぶことで、現代人が忘れかけている心の持ちようを、日本人の精神遺産として普遍化することを試みた一冊です。

『がん研究の先駆者吉田富三』

内田 宗壽／著 吉田富三顕彰会
2013.9 L289/Y19/20

現在の浅川町出身の病理学者・吉田富三氏の、生誕110年・没後40年を記念して出版されました。吉田富三記念館名誉館長である著者が、吉田氏と、その周辺の人々との交流や思い出を振り返ります。

がん研究など医学の分野にとどまらず、日本の国語文化にも影響と功績を遺した吉田氏の生涯・生き方・言葉を伝える一冊。